

継続事業評価調書

【道路事業】

一般県道 桑原北山揖保川線

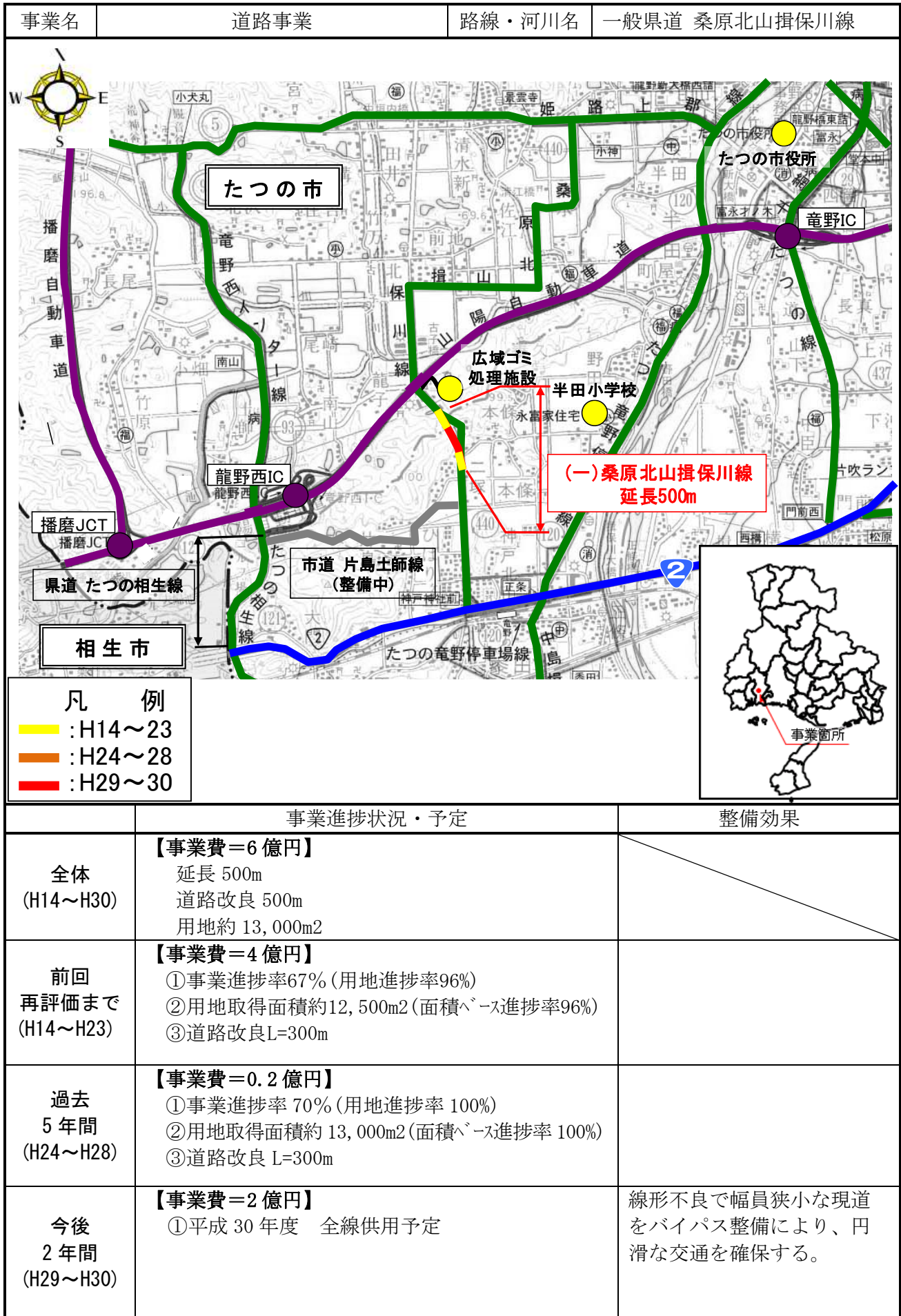
県土整備部

土木局 道路街路課

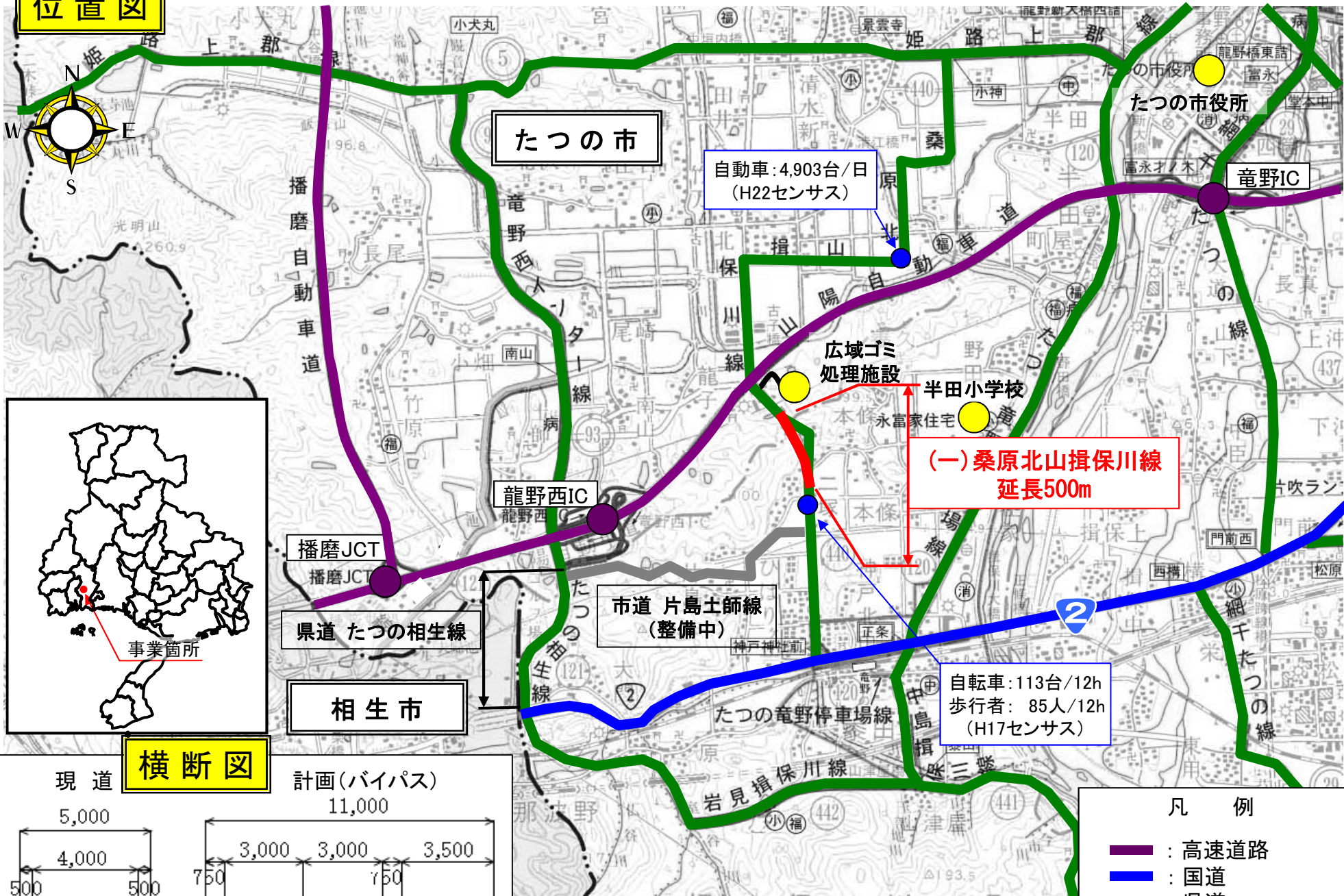
投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)
事業種目	道 路	新規評価年度	平成13年度	今回評価	前回評価
事業名	道路事業 一般県道 くわばらきたやまいほがわせん 桑原北山揖保川線	事業採択年度	平成14年度	総事業費	6.0億円
		着工年度	平成14年度	内用地補償費	2.2億円
		再評価年度	平成23年度	完成予定年度	平成30年度
事業区間	たつの市揖保川町二塚 いぼがわちようふたつか			進捗率 (内用補進捗率)	70% (100%)
				残事業費	1.9億円
事業の目的				事業内容(): 前回評価時点	
<p>本路線は、県道姫路上郡線と国道2号を南北に結ぶ幹線道路である。</p> <p>○安全で円滑な交通の確保 線形不良で幅員狭小な現道をバイパス整備により、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な歩行者通行の確保 歩道を整備し、歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>○広域ゴミ処理施設へのアクセス強化 揖保クリーンセンターへのアクセス道路としての機能を強化する。</p>				<p>【延長】500m</p> <p>【構造規格】第3種第3級</p> <p>【幅員】 計画:2車線 片側歩道3.5m 車道6.0m [全幅11.0m]</p> <p>【計画交通量】5,200台/日 [H42年予測] (5,200台/日 [H42年予測])</p> <p>【現況交通量】 自動車:4,903台/日 [H22センサス] (4,903台/日 [H22センサス]) 自転車:113台/12h [H17センサス] (113台/12h [H17センサス]) 歩行者:85人/12h [H17センサス] (85人/12h [H17センサス])</p> <p>【負担割合】国55%、県45%</p>	
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</p> <p>①用地買収において、価格の開きやバイパス整備の必要性に理解が得られず、交渉に時間を要したため、完成予定年度を平成30年度(前回平成26年度)に変更する。</p>				
進捗状況	<p>①進捗率は事業費ベースで70%(平成28年度末予定)、用地取得は100%(平成27年度末)。</p> <p>②平成27年度に用地取得が完了したことから、地元から当該箇所の早期供用が求められている。</p> <p>③今年度から工事を再開し、平成30年度完成を目指す。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H23再評価)	【審査会意見】 継続妥当	【対応方針】			—
(1)必要性	<p>①本区間は、線形不良かつ幅員が狭小で、大型車は離合が困難な状況であり、過去5年(H23~H27)に交通事故が5件発生していることから、本バイパス整備により、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>②現道は小学生や高校生の通学経路として利用されているが、歩道が無く、路肩も狭く危険な状況である。学校関係者・地元住民・道路管理者等で実施した通学路合同点検において、当該区間の危険性が指摘され、たつの市の「通学路安全対策プログラム」(H27.1)に本事業が位置づけられている。このため、歩道を設置し、児童等の歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>③当該地は広域ゴミ処理施設(揖保クリーンセンター)へのアクセス道路としての機能強化を図る。</p>				
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比B/C=1.1(全体)(前回評価時点B/C=1.2)、B/C=4.5(残事業)</p> <p>②事業完了後の現道の管理引継について、たつの市と協議が整っている。</p> <p>③揖保川町二塚自治会から早期供用の要望がある。</p>				
(3)環境適合性	<p>①通過交通をバイパスに転換させることにより、大型車等による交通騒音や排気ガスなどの沿道環境が改善される。</p> <p>②歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。</p>				
(4)優先性	<p>①現在、たつの市で進めている県道たつの相生線と本線を結ぶ市道片島土師線は、西側から順次工事進捗を図り平成30年度の完成を目指している。当該路線と併せ、旧揖保川町内の道路網の充実が図られる。</p>				
再評価の結果	継続	理由	①事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、当該箇所の早期供用を望む地元の声が強いことから、継続して事業を実施する必要がある。		

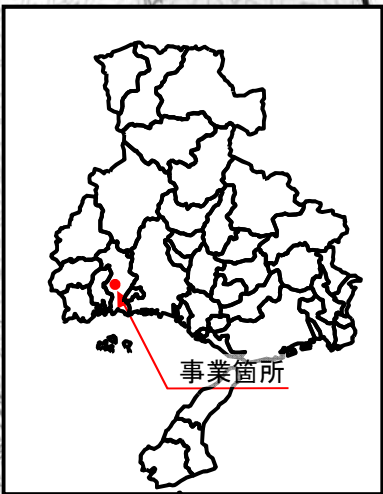
事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）



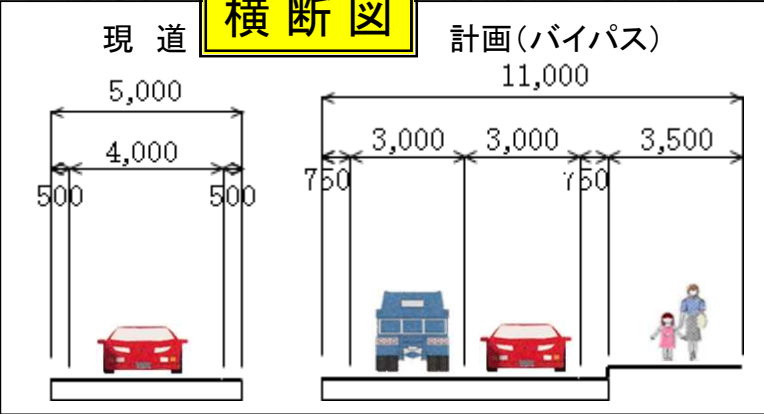
位置図



道路-3

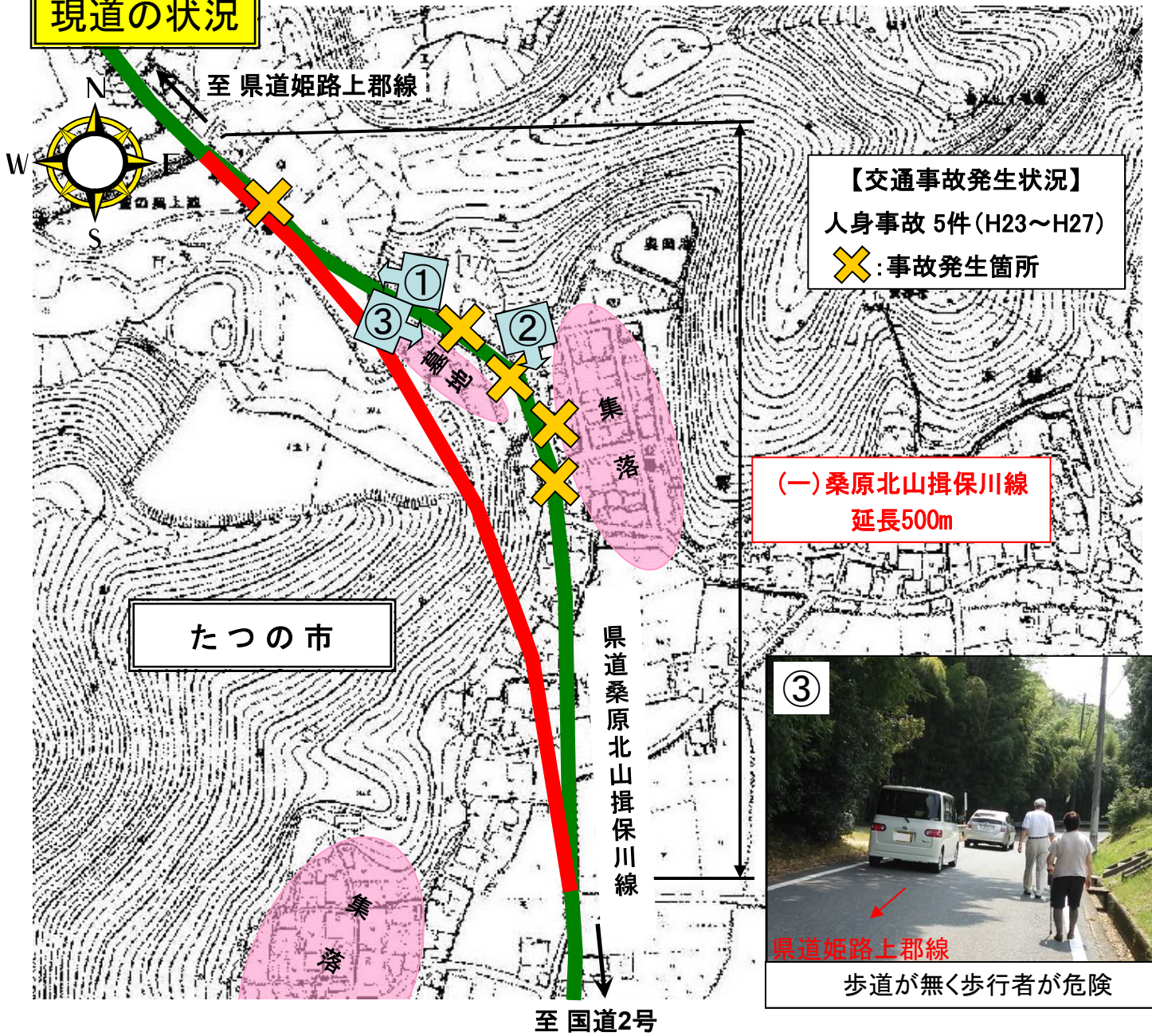


横断図



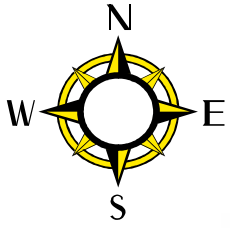
- 凡例
- : 高速道路
 - : 国道
 - : 県道
 - : 事業区間
 - : 市道
 - : 公共施設
 - : 交通量調査地点

現道の状況

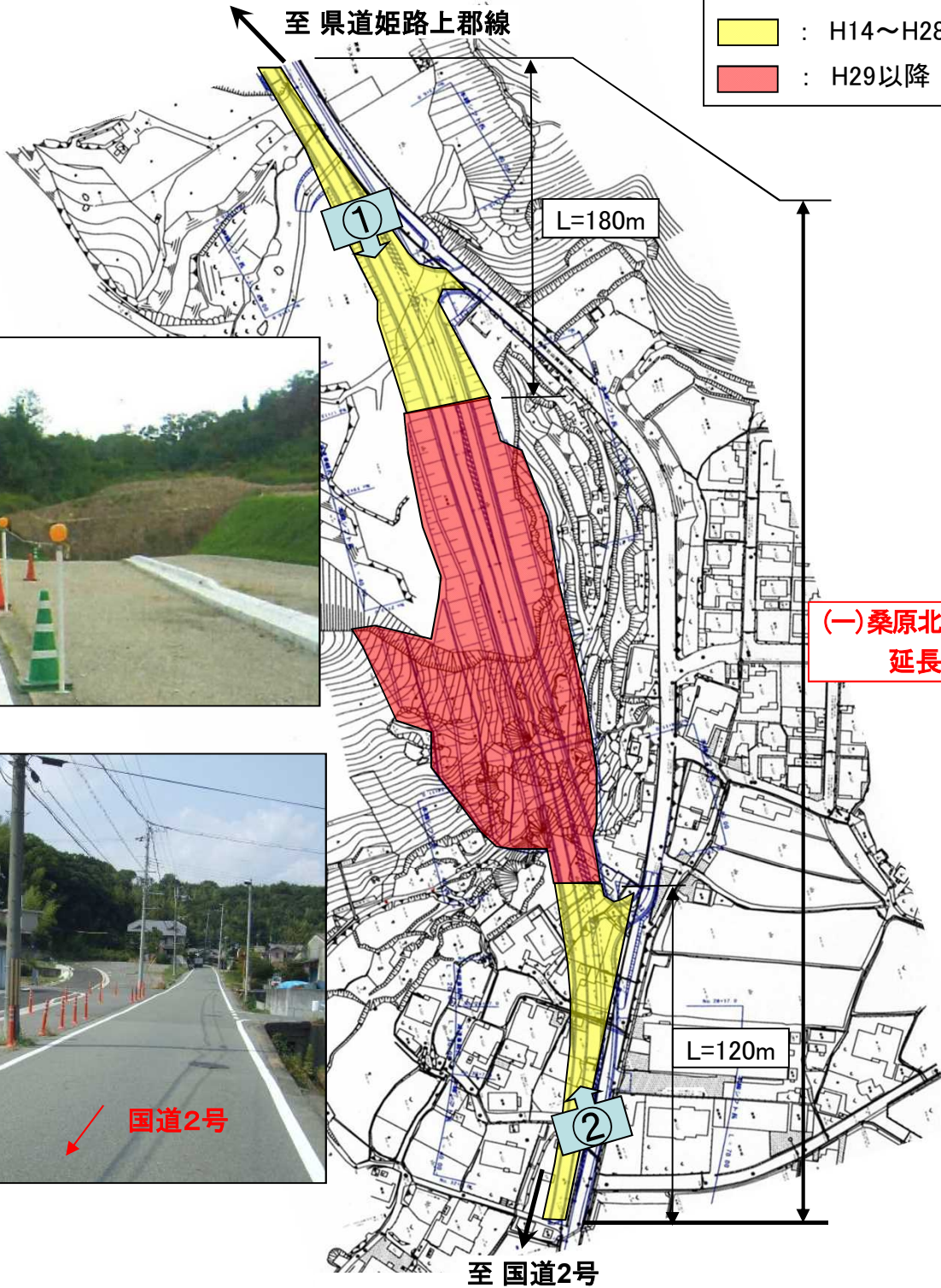


当該区間は幅員が狭小な上、線形が悪く、交通事故が発生。
歩道も未整備なことから、歩行者にとっても危険な状況。

整備状況

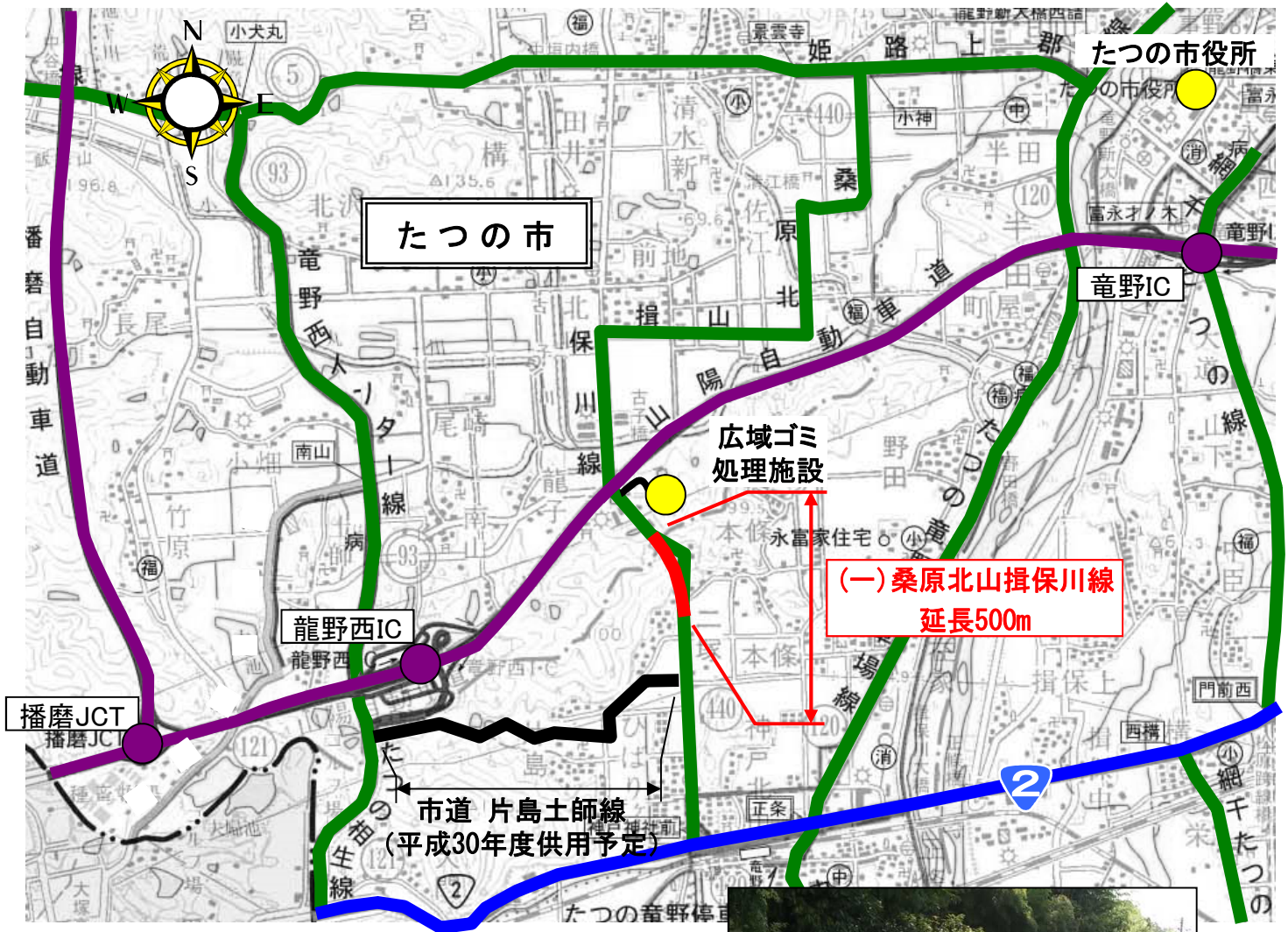


凡 例	
	: H14~H28
	: H29以降



- ・事業進捗率70%(事業費ベース、H28年度末予定)
用地取得率100%(面積ベース、H27年度末)
- ・バイパス起終点(L=300m)については、街渠工等が完了済み。
- ・平成28年度から工事を再開し、平成30年度の完成を目指す。

アクセス機能の強化



広域ゴミ処理施設(揖龍クリーンセンター)



たつの市・太子町の家庭及び事業所から排出されるごみ(一般廃棄物)を処理するための施設

かたしま はぜ

- ・たつの市道片島土師線は平成30年度の供用を目指しており、当該箇所の整備と合わせて、旧揖保川町内の道路網の充実が図られる。
- ・広域ゴミ処理施設(揖龍クリーンセンター)へのアクセス道路としての機能を強化する。

1 スケジュール

工種	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H		
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
調査・設計	■																			
用地補償	■																			
道路改良工事					■							■							■	

■ : 前回評価 (H23)
■ : 実施・計画 (H28)

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益 (B) の項目

	B(便益)	算出方法
道路事業	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用) (百万円)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用	事業費	維持管理費		
道路	一般県道 桑原北山 揖保川線	全体事業費	① 走行時間短縮便益	751	時間短縮: 1.5分 → 1.0分 計画交通量: 5,200台/日	723	695	28	1.1
			② 走行経費減少便益	48					
			③ 交通事故減少便益	1					
			計	800					
		残事業費	① 走行時間短縮便益	751	時間短縮: 1.5分 → 1.0分 計画交通量: 5,200台/日	176	148	28	4.5
			② 走行経費減少便益	48					
			③ 交通事故減少便益	1					
			計	800					

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 歩道整備による歩行者の安全性確保
- ② 揖龍クリーンセンターへのアクセス道路として機能強化

道路・街路事業の効果

対象事業:道路事業 (一)桑原北山揖保川線

(1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による、燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
①安全・安心の確保	災害時 緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	—
	救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	—
	減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—
	平時 救急医療体制の支援	—
	交通安全対策	○ 線形改良・道路拡幅・自転車歩行者道の整備による現道利用者の安全性確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	—
	中心市街地の活性化	—
	地域産業の活性化	—
	観光支援	—
	地域プロジェクト等支援	—
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通がバイパスに転換され、沿道環境が改善 歩道舗装を透水性舗装とし、雨水を地下に涵養

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	地元から早期供用を求められている。
-------	-------------------